

公共交通活性化アイデア集

平成14年1月30日

ふくい路面電車とまちづくりの会 (ROBAの会)
乗るしくみを考えるチーム

はじめに

わたしたちROBAの会は、車社会が過度に進展している現代社会を鑑み、公共交通の必要性を再認識し路面電車を含む鉄道を軸としてのふくいのまちづくりを目指して、昨年2月に設立いたしました。

残念なことに、会の発足と同時に京福線の廃線問題が大きな社会問題に発展いたしました。わたしたちが目指す誰もが安心して乗れる便利な公共交通の活性化も、基軸となる鉄路が無くなると市民生活に大きな弊害が生ずるとの思いから「ふれあいトーク」、「県議会請願」、「JC主催市民会議」等を通じて公共交通の大切さを訴えてまいりました。

ここに来てようやく電車存続の方向性が明確になるに至り、その必要性について行政をはじめ多くの方々が認めるからこそと安堵しています。今後存続決定された後も、その他公共交通を含めて活性化のための提言を多くの市民と共にしていきたいと考えています。

さて、わたしたちの活動の中でこれまで数々の公共交通活性化策を提案していましたが、これらを整理しさらに会員以外の意見を取り入れ、「公共交通活性化アイデア集」を作成いたしました。なにぶん、時間の制約があり稚拙なアイデアではありますが、ROBAの会として約1年間の市民活動の中で、多くの諸先輩、県内の他の市民グループの意見、県外の公共交通事情、そして先進欧米都市の先例等を参照して作成いたしました。

その実行に際しては、コストと時間を要すものもあれば、すぐに明日からでもできるアイデアもあります。福井県の公共交通の新たな第一歩を踏み出そうとしている今、強い信念と勇気ある決断でもって福井県を日本一素晴らしい公共交通体系に導いていただきたいと思えます。

微力ながら、ROBAの会も公共交通の活性化のために先頭に立って歩いていくことをお約束申し上げまして、お願いの言葉に代えさせていただきます。

平成14年1月

公共交通活性化アイデア集

～乗る仕組みを考える～

1 運行

a 路線

鉄道は、快適性、大量輸送力、安全性などの優れた機能を持つ反面、ドアツードアの利便性に欠けます。この欠点をカバーし、利点を最大限に発揮するために、経営主体の壁を越えて、軌道間隔が共通な鉄道はできるだけ直通運転をすること、バス等の端末交通との連携で乗り換え抵抗を最小にする路線形態を提案します。

また、勝山・大野・三国・芦原温泉・鯖江・武生は全て福井市にとっての都市機能の一部としての認識が必要です。全て福井市の集客機能を補い、強化を図るうえで重要です。それらを実現する手段として鉄道を活用することを提案します。

福井口～福井間を新幹線下空間を活用して、軌道として整備するとともに、「ひげ線」と直結させ、既存駅前商業空間（南側）への送客拡大を図るとともに、北側にも新たに商業・ビジネス空間の創出を可能とする。また、駅前には駅前広場の一番駅舎よりを横断する形として、新幹線・現 JR 線との乗り継ぎの円滑化を図る。

三国芦原線を田原町で福鉄と直通運転することにより短絡・都心直通ルートに切り替える。

福鉄の JR 駅前広場乗り入れにより鉄道相互の結節強化を図る。

越前本線と JR 北陸本線の直通運転を行い、2 路線並行による敷地・設備の無駄を解消すると同時に、スキー輸送、登山輸送、大遠忌輸送（早期運行再開が前提）を推進する。

勝山橋に軌道を敷設して市街地に乗り入れる。

Ex, 勝山大橋を渡ったところまで。（2 億～3 億で乗り入れ可能）

本町 2 丁目バス停の位置まで。（坂手前で広いスペース。中心部も近い）

サンプラザまで。（市街地中心）

三国港からゆあばーと・サンセットビーチ入り口まで併用軌道で約 100m 延伸し三国海岸駅を設置する。

【観光施設への直接乗り入れを行い、乗客増加を図ると同時に、観光路線としての性格をはっきりさせる。また、“三国海岸”という駅名は福井市にとって都市機能としての“電車の目的地”を表示する効果が大い。江ノ島電鉄的なイメージも獲得できる。】

福鉄は武生新からJR武生駅前を經由し、蔵の辻まで併用軌道で延長する。【福井市にとっての武生の新たな性格付けになり、福武線の性格にも意味を付け加えることになる。またJRとの結節を図り公共交通体系を強化するものである。】

永平寺線を存続させ、9月16日からの大遠忌参拝のピークに福井 永平寺間で部分運行を開始する。

永平寺線電車は全便福井直通とし、集客力の強化を必要とする福井市にとっての重要な都市機能を担う永平寺への観光幹線として位置付ける。

勝山から大野まで延長し、越美北線に北大野付近で乗り入れ。奥越地域の活性化と長期的経営基盤強化を図る。

Ex, 中部縦貫自動車道と一体化したトンネルで最短距離のルートを採用。

勝山大橋、勝山バイパスの併用軌道ルートを採用、勝山大仏や平泉寺を經由して、観光路線化・低費用を実現する。

越美北線の福井市内区間は駅の再配置を行い、ミニ・ゾーンバスとの連絡輸送体系を確立する。

越美北線の福井近郊区間は南福井・福井新から福武線に乗り入れ、都心直通路線とする。

武生（武生蔵の辻） 三国（三国海岸）間を福井県の地域軸に育てる。これはJRとは違い、武生都市軸、鯖江都市軸、福井都市軸を貫通し、主要観光地三国海岸・芦原温泉に直接乗り入れるものである。

新幹線の高架下・側道を利用して、軌道線を大和田、丸岡方面に敷設延伸する。

b ダイヤ・道路信号

鉄道の本来持つ速達性が、福井では駅での待ち時間、停車時間、電車の信号待ち等で台無しになっています。我々は、待ち時間を最小にするダイヤの連携、路面電車優先信号などを提案します。

終電を遅らせる、あるいは、割増運賃の「深夜電車」を運行する。（定期客は差額支払い）

路面区間の線路は、現行の道路中央から両端に移設し、地下道を通らずに（道路を横断せずに）乗れるようにする。

通勤通学の利便向上のため朝夕の列車を増やす、車からの回帰の狙う。

クルマとの利便性比較に対処するため朝夕に特急を走らせる。車より速くて便利であれば、よく車を利用する人でも電車を使う機会が増える。

路線バス、すまいるバスとの結節を考えたダイヤ、電車のダイヤに合わせた路線バスの運行計画、終電に合わせたバス（或いは乗合タクシー）の運行。

越前本線の電車は通勤通学時に福井駅直通と田原町経由を併用し、文京・中心部直通輸送を拡大する。

路面部分においては、電車の優先性を重視する。

Ex, 右折（軌道横断）自動車の軌道内待機禁止 [または直進・左折信号と右折信号を分離] 路面電車の優先信号の採用

パークアンドライド、ライドアンドライド対応駅に重点的に優等列車（特急・急行等）を停める。

時間帯によっては東古市・西長田・神明以遠の各駅に停車する区間特急（急行）と東古市・西長田・神明止各駅停車の連絡輸送を行う。全線特急（急行）運転・全線各駅停車の組み合わせよりコストは低くなる。

営業活動、情報収集を徹底し、チャーター便・車両増結による輸送を獲得する。また、イベント等の輸送に積極的に対応する。

主要駅で電車とゾーンバスをホーム to ホームで接続させ、運行・料金のシームレス化を図る。

Ex, 松岡 福井医大、県立大学 越前島橋
越前開発 大和田
越前竹原 勝山市西部
福井 福井市街地（ホーム to ホーム）

C 車両

他の交通機関との競争力の強化、移動困難者の円滑な移動には、車両の更新、改良が大きな意味を持ちます。我々は、福井の鉄道車両の魅力をアップし、素敵に演出する方策を提言します。

普段車を利用する頻度の大きい若い人たちの支持を集める設備・機能・デザイン・塗装を採用し、アピールする。「人気がある電車」にして、徹底して電車のイメージを高める。

L R Vを導入する。

全低床 L R Vを導入する。

部分低床の L R Vを導入する。比較的安く、今の日本の技術で製造可。高速性も確保できる世田谷線タイプの中低床 L R Vを導入する。（安く、高速性に優れ、雪に強い。軌道区間はホーム嵩上げでバリアフリーを実現。歩行者・車への威圧感・圧迫感はない。）

高加速、高減速の電車を導入して、スピードアップを図る。

多ドア車両にし、ホームでは全てのドアを開ける。一番前のドアからしか降りられないというのは避ける。それにより年齢・体力のバリアフリーとスピードアップを実現する。これは運賃収受方式が鍵になる。

電路維持を省略するために無架線電車を導入する。マイクロガスタービン、C N Gエンジンが考えられる。近い将来、その部分のみ燃料電池に取り替えることも可能。架線区間はパンタグラフを上げて走ることも可能。ハイブリット。【マイクロガスタービン・C N Gエンジンは既存の電車にも取り付けが可能とのこと。】

良い中古車両を無償譲渡により取得し、設備投資を経営環境改善に充当する。【名鉄5500形が今年から廃車が始まるが、唯一の福武線への入線が可能なATS・冷房付き車両である。他に規格が合うのは長野電鉄2600系。1編成が存在し廃車留置中。同じ元東急5000系で、松本電鉄5000系。2編成が存在し廃車留置中。ATS・冷房なし。いずれも少々古い。LRV導入へのつなぎとしても導入可。】

福井鉄道で不要になった車両を三国芦原線に導入する。

福武線を走行可能な中古車は今後長期的には得られにくいいため、LRV導入を三国芦原線・福武線に絞り、越前本線は豊富に供給される大手私鉄等の状態の良い中古車をそのまま使用する。

特急用を意識した車両を導入し、接客設備を充実させる。クロスシートで着席率を高め、立ち席を減らす。

クロスシートを採用し、ブレックファスト電車・モーニングコーヒー電車を実現する。

自転車持ち込みを可能とする車両・車内設備を採用する。

全車冷房化を達成し、クロスシート、インテリアとも相まって、快適性を追求する。

車両塗装を魅力あるものにする。

- 例1) 電車に路線毎のアイデンティティカラーを採用する。(例：三国芦原・福武線＝「海」のイメージの青や「夕日」のイメージのオレンジ、越前本・永平寺線＝「山」のイメージの緑 等、同じデザインでラインだけ変える。)
- 例2) 若い人が好む塗装＝パステルカラー、パール塗装等を採用し、京王井の頭線のように車両毎に一部分の色を変える。
- 例3) 電車の塗装は大人の鑑賞に耐える、シックでハイセンスなものにする。シックでありながらもっきりした、紺とかグリーンとか、チョコレート色等。(例：ゆふいんの森号や阪急電車)
- 例4) 特急、高速走行を連想できる塗装にする。
- 例5) キャラクター電車は日曜限定や季節限定の臨時便で採用する。
- 例6) イベント時に三国芦原線を大漁旗で飾る。

お座敷電車を導入する。(宴会・カラオケ対応、昼間はカルチャースクールとしても使える)

ビュッフェ電車を導入する(朝はモーニング、昼はランチ、夜はバー、間の時間は喫茶。実際にドイツには存在する)

見て乗って楽しい公共交通 = 電車・バスの図柄は沿線の名所でラッピング。沿線イメージが伝わる。

(ただ1年中同じでなく、季節に応じて変更する。冬は永平寺の雪、春は勝山の弁天桜、夏は三国の海水浴、秋は? また、ペイントは小学校の図画作品から選出。親子の関心が高まる。)

自転車でGO(サイクルトレイン) 武生から三国・勝山までの直通電車で自転車に乗せ、自転車で三国海岸や奥越高原の回遊をする。土日祝日だけの運行で構わない。地域間の連携に効果。

車内TV(CATV)、字幕スーパー(コミュニティニュース)の設置

車内でニュースが見られるようにする。JRのように全国ニュースにする必要はない。

沿線のイベントのお知らせ、店の情報など地域に密着した情報の提供を図る。

2 運賃システム

a 料金設定

鉄道の乗客が1人増えても運行経費はほとんど増えません。我々は、鉄道会社の収支だけにとらわれず、多くの人々が利用でき、社会的便益を最大にする運賃水準を主張するとともに、新たな需要を掘り起こす運賃設定を提案します。

企業定期券、学校定期券など定期券活用

運賃の値下げ 利用者は増えるが短期的には旅客収入は減少する。但し、新しい電車へ呼込む方法としては運賃値下げはインパクトが大きい。

(案1) 福井 勝山 900円を600円(3割減)

福井 三国港 900円を600円(3割減)

* 運賃収入は3割減る代わりに、3割以上の大幅な利用者増を目指す

(案2) 子供、高齢者、障害者への福祉乗車券の導入

(案3) 長距離逓減運賃制を導入(福井鉄道で実施)

(案4) ゾーン運賃制の導入(何駅から何駅というような区間券ではなしに、たとえば、福井市、坂井郡、吉田郡、勝山市などのゾーンに分け、ゾーン移動券を購入する)

電車、バスの共通乗車券、定期券の発行(プリペイドカードなど含む)

自転車専用スペースを設け、持込料を無料にする。

乗車券購入窓口を多くする(市町村、大型ショッピングセンター、コンビニ、郵便局、本屋など委託販売所を多くする)

乗車券、定期券購入の簡素化(FAX、インターネットなどでも受付し、郵送も可能とする)

(値下げについて)

運賃帯別利用実績を調べて、マーケティング手法を導入する

低運賃帯(=近距離客)と高運賃帯(=遠距離客)のどちらをターゲット・マーケットとするかを考えて、値下げ戦略を決定する。初乗りの値下げか、最高運賃の抑制(天井定額制)か?

全体的になんとなく値下げするのは、減収効果が高いだけで、集客効果が薄い

b 乗車券企画

わたしたちの生活・レジャー・ビジネス。あらゆる場面を想定し、こんなときにこんな切符があれば乗るのになぁ……。と思う切符をいろいろ考えてみました。

運賃割引

往復割引

グループ割引

バス（すまいるバス、JR、福武線含）との乗りつぎ割引

定期券

全線定期券（経路や区間に関係なく自由に利用できる）

持参人式定期券（持参すればだれでも使用でき、自治体・企業が従業員に貸し出したり、家族などで使用する）

片道定期券

端数日定期券（学期日数に応じて端数日処理した定期券）

半月定期券

昼間割引定期券（日中の指定時間帯だけ使用できる）

平日定期券（平日だけ使用できる）

企業定期券・団体定期券（企業や学校などでまとまった数を一括購入すると、割引額を高める。また、企業名や学校名を公表し環境度アップとして表彰する）

通勤定期券の上限制度（高額化による利用者離れを防ぐため、最高額を決め、購入者は全線利用可能）

長期定期券（契約年数アップにつれて高割引にする）

区間定期券利用者の特典（土日祝は全線100円で利用可・レンタカー利用割引・沿線市町村施設利用無料化など）

短期定期券の導入（1日乗車券、1週間定期等々）京福・福鉄・バスを共通化したい。狙いは、観光・ビジネスで外から来る人たち。出発地の旅行会社でクーポン発券できるとよい（引き換え制）

雪の日定期券 一定以上降雪（積雪ではない）の日だけ使える定期券。普段、クルマに乗っている人をターゲット。シーズン売りで、かなり割安。でも、払い戻しはしない。（暖冬でも、戻さない）

雪国の鉄道の使命として、降雪でクルマが使えない日の緊急手段という面があるが、そのためにも一定の準備投資が必要となっているので、それを賄う面もある。

ICカードの導入（例・山梨交通バス。JR東日本タイプではなく・・・）

回数券

昼間回数券（日中の指定時間帯だけ利用できる）

利用日限定（ノーマイカーデーや沿線の市町村のイベント開催日だけに利用できる）

ホリデー回数券（土日祝に限定して利用できる）

多券片回数券（券片数を多くして割引率を高める）

回数券の使用期限の延長

フリー乗車券

1日フリー乗車券（電車だけ、電車とバス共通）

期間限定1日フリー乗車券（電車だけ、電車とバス共通の2種類で土日祝または春夏冬休み限定）

企画乗車券

イベント割引キップ（テーマパークや観光施設とタイアップし、往復乗車券と施設入場券をセットにした乗車券）

沿線商業施設とタイアップした乗車割引券

沿線の宿泊施設（温泉、民宿）利用セット乗車券

共通プリペードカード

県内の電車、バス共通で使えるプリペードカードを導入する。（例：するっと関西）

3 地域活性化〔ソフト〕

a 物販

電車に乗るのが楽しくなる品々、電車があるから売れるキャラクター商品、電車とのタイアップで電車のイメージアップ、商品の付加価値向上、市民の生活改善が図れる商品を開発しました。

県民手帳に路線図を掲載、ハンカチ、マグカップなどに路線図をプリントし販売、テレホンカードに路線図掲載、路線図入りポケットティッシュ。

関連グッズの販売（チョロQ、ネクタイピン、マウスパット等）。

電車利用に便利な生活用品の企画販売（定期入れ、折り畳み自転車、ショッピングカート、ベビーカー、ジンジャー）を行って、電車利用の生活スタイルを提案する。

電車や地域をモチーフにしたカレンダー、時刻表。

b イベント

電車があるから行きたいイベント、電車の楽しさを知らせるイベント、沿線の資源を活用したイベントを通じた公共交通の活性化を提案します。

海水浴電車の運転

往復乗車券に浜茶屋利用券を付ける

スキー列車、JR シュプール号の乗り入れ

勝山駅より無料連絡バス

カラオケ電車、ピアガーデン電車、マンガ電車、図書館電車、お見合い電車の企画

電車に乗っていくイベント（鉄道会社だけでなく各自治体においても企画）を定期的に行ってファンを獲得する。親子ウォークラリー、オリエンテーリング、サイクリング、トレッキング、登山等。

ミステリー電車の運転（行先をあらかじめ知らせないで運行し、意外性を楽しむ企画）

駅舎と文化施設を併設、コンサート等の開催。コンサート入場券に乗車券をセットにして販売

スポーツイベントに乗車券をセット（サッカー、野球など）

観光駅長を置いて駅の観光地における役割を強化する

C 路線図、時刻表

いくら目的地に早くいける公共交通があっても、それを知ることができなければ利用できません。いつでも、どこでも、誰でも一目ですべてがわかる。そんな路線図・時刻表を提案します。

目的に応じた路線図の作成

英字版路線図の作成。

海外向け福井観光ガイド、HP に掲載する

身障者、高齢者用路線図の作成。

エレベーター、スロープの有無、車いす対応トイレか否か、ホームとの隙間や段差が何cmあるかといった詳細な情報を掲載する

接続交通機関の表記。

タクシー乗り場、駐車場、駐輪場の有無、タクシー、P&R（パークアンドライド）、B&R（バイクアンドライド）、空港への連絡手段（小松空港へのシャトルバス路線）を表記する

各線のアイデンティティ・カラーの設定

系統ごとに異なる配色をして、そのアイデンティティ・カラーを路線図上のみならず駅案内、時刻表をはじめ、全ての関係表示の中で一貫して用いる

HP で路線図、時刻表（地域時刻表）を公開し、いつでも取り出せるようにする

路線図の様々な場面での活用

県民手帳への路線図掲載

現在掲載の東京、大阪の地下鉄路線図に代えて福井の路線図を掲載する

ダイヤ改正時に配布される鉄道時刻表への掲載

福井県鉄道時刻表の中に公共交通全般の時刻表を掲載してもらう

路線図シールの作成

既存のバス停、電停等の案内板、車内にこのシールを貼る。現状では各線に関する情報しかなく、福井全体の交通網に関して利用者がわからないため

観光パンフレットへの掲載

各種観光ガイドブック、観光パンフレットへの掲載。もちろん福井市のみならず、路線図中の市町村も含めて行う。

Tシャツに路線図をプリント

持参用の買い物袋へ路線図をプリント

公共交通の利用も、買い物袋の持参も環境に優しい。環境意識から公共交通利用を促進

ハンカチ、各種カード（テレホンカード等）、マグカップ等へプリント

駅や車内で販売し、土産になる。公共施設で利用し、アピールになる。

路線図入りポケットティッシュ

ポケットティッシュの中へ路線図を入れ、無料で持ち帰れるようにする。これを各観光案内所、地元銀行、あるいは県外から新入生の集まる大学へ設置

地元情報誌上で定期的にカラー版を掲載

地元情報紙上に定期的にカラー版を掲載する。雑誌上にある催し物案内などのコーナーもこれに連動させて「会場へは何線何駅、何線何バス停から何分」といった表示を加える

時刻表、路線図を定期的に無料配布する

時刻表、路線図、運行状況をデータベース化

パソコンや携帯電話から電車、バスを含めた行き先検索、ルート案内ができるようにする。駅や主要バス停にも情報端末を設置する。

接近表示

電車、バスの接近表示、次に発車する時刻案内を駅、バス停と沿線の病院や公共施設に設置する

d 文化

駅舎に人を集めよう。駅へ行けば文化がある、駅の周りに文化がある。そんな駅の使い方、駅周辺の味わい方を提案します。

出版物

県内の名所、旧跡の歴史、由緒を冊子にして列車での詳しいアクセス方法を記し、県内の駅・バス停・旅行カウンター・店舗・温泉施設・主要な神社仏閣に置く。

駅活用

駅でコンサート(待合室などで室内管弦楽やギター類、ボサノバ弾き語り、三味線と尺八など)。毎月1日、など定期的に行い、その駅の名物にする。演奏者も住民から募る。

同様に、駅で寄席(落語や浪曲)。お年寄りに喜ばれる

駅にレストランを設置し、地域の特産品料理を提供。三国港でとれる魚介類や、坂井郡の牛肉、米。勝山の牧場から牛乳、チーズ、アイスクリーム。上志比のんにく。レストランだけの利用もできるように、改札の中からも外からも入れるようにする。そういうレストランで料理教室をして主婦を集めてもいい。営業時間は終電通過まで。

駅にバー。「飲める」ことは車に勝つ大きなポイント。待ち合わせに使える。会社帰りのサラリーマンの大きな楽しみになるはず。定期的にきき酒やワインテイasting教室をしてもいい。営業は終電通過まで。

障害者授産施設がつくる商品を駅売店で販売。

駅で大学。先生を呼んで出張講座。誰でも自由に来て聞ける。勝山の恐竜博物館の学芸員や県立大の先生、歴史に詳しいボランティアガイド、お坊さんなど。

駅に温泉！ ホームからもいけるように。

駅にミニ劇場。レストランもあれば観劇後、感想を述べ合いながら食事ができる

ツアー企画

電車で行く、農業体験ツアー。稲刈り、果物の収穫、乳搾り、ハーブ栽培など。農家の協力が必要だが、都会の客がぜったい呼べる。

公募企画

駅ごとに短歌を募集し、駅名百人一首を作成。駅ごとの歌会を開催(上記パネルに添える)

鉄道唱歌嶺北編の作詞作曲（または公募）

「鉄道をテーマにした、または鉄道の出てくる映画コンテスト」を開催し（賞金など出す）ロケをしてもらう。このコンテストは高校生対象、などとしてもいい

駅弁の開拓

J R線では駅弁があるのに私鉄ではほとんどない。駅弁は百貨店などでも大人気！だから本当にその地域・地区限定のお弁当を考案して販売する。（主婦のアイデアなどがあると面白い。地区の料理会などにアイデア募集。）

e 広報

電波が紙が駅の壁が電車の楽しい使い方をお届けします。あらゆるメディアを使った電車の広報を提案します。

マスコミ利用

地元民放テレビ・ラジオ、URARAなど情報誌に「電車で行く小さな旅」の番組をやってもらう。

るるぶ、じゃらん、ウォーカーなど旅雑誌に、「電車で旅する福井」を売り込む。

芦原温泉、三国温泉、小舟渡のかまぶる温泉、勝山スキージャム温泉などの湯めぐりコースを冊子にしたり、車内つり広告でアピール。

映画、テレビドラマのロケ誘致（東尋坊や温泉）。若手監督などに売り込む。

駅展示

駅ごとに周辺名所紹介のパネル展示。

沿線のお祭りを紹介するボードを全駅に設置する。

情報管理はボランティア・NPO、張り出し管理は鉄道会社とする。当日は、最寄駅は飾り付けする（地元へ依頼。対策本部テントスペース等に駅を使ってもらう。使用料はもちろんとらない）

駅配布書類

県、市町村の広報を、駅に置く（新聞取ってない学生・老人でも読める。しかも、電車の中ではみんな暇）

f 演出

どこのまちにも歴史があります。人のドラマがあります。沿線地域を物語で魅せます。

路線の名称を例えば越前本線を奥越高原線、三国芦原線を湯の町海岸線としてイメージ戦略を行う。

駅名に駅周辺の施設や観光資源の名前を入れる。

観光地の路線周遊バスをボンネットバスにしたり旅情豊かな演出にする。

駅舎をその地域の玄関としてふさわしい建物にする。歴史的観光資源のある場所ならそれをイメージできる建物にする。

奥越は奥越らしく、三国芦原は三国芦原らしく電車・バス・駅・観光施設を演出する（手を加えないことも含めて）。

4 地域活性化〔ハード〕

a 駅周辺・パークアンドライド

駅周辺の空間は、交通の結節、歩いて楽しい空間、交通弱者も使わざるを得ない公共施設に最優先に配分されるべきです。行きたい駅周辺への整備を提案します。

パークアンドライド用の駐車場の整備（既存施策の強化・徹底）

サイクルアンドライド用駐輪場の整備

駅周辺に公共施設を積極的に配置

役所、図書館、公民館、保育園、シルバー人材センター等々

駅周辺に歩きやすい空間を整備

福井市中央地区のトランジットモール、歩行者優先道路、広場、公園等

駅までの道路を歩きやすくする

駅前広場等の整備で乗り継ぎの円滑化

駅前広場、複合交通ターミナル等の整備で電車とバス、タクシー等への乗り継ぎの円滑化

駅までの道案内を徹底

b 駅

駅舎・待合室を演出し有効利用しよう。公民館、コンビニ、ホームを見守る人のいる空間にしよう。駅には情報がある、出会いがある、右に電車が左にバスが。何でもある駅にして電車に人を近づけよう。

市町村が駅を直接経営し、乗る仕掛けづくりを競う。駅とパークアンドライド駐車場とスーパーマーケット・コンビニ、公共施設（市町村役場・図書館・診療所等）を組み合わせ、“利用促進装置”を工夫する。

福井駅行きのバスを全廃し、全てゾーンバスとして最寄の“市町村拠点駅”に接続させる。

ゾーンバス、乗合タクシー、レンタサイクル等、フィーダー輸送を駅ごとの需要にあわせて用意する。

市町村による駅のデザイン、装飾を工夫、住民の意見を反映した駅舎づくり

（そのために、線路とホーム以外の駅舎等は地元市町村管理にするのも一考の余地あり。駅舎のかたちは、周囲の自然景観、歴史的背景、産業など地域の特色を理解した上で、まわりと合ったものにする。まわりから浮かぬこと。越前本線は自然豊かな沿線ということを意識して、木造、それが不可能ならどこか一部でも木を使った建築にする。三国町内なら町屋づくりや、明治の洋館風。）

一箇所ですべての交通機関の時刻表や乗り場、路線がわかる工夫を

駅の新設

新田塚 西福井間

福井口 西別院間（JRとの交差点）等

駅舎内にコンビニの誘致、貸し自転車、貸し傘、会員制レンタカー（カーシェアリング）の配置

駅の待合室を多目的化できる空間、構造にする（3地域活性化 - d文化を参照）

例1）駅の上を集合住宅にする。公営でも民間でも。東武伊勢崎線の竹の塚駅（東京都足立区）は駅の上に東武のマンション。まさに駅から徒歩0分、車いらず。老夫婦の2人暮らしなどにいいでしょう。

例2）ホームに人を。三軒茶屋のホームで乗客が殴られて死んだ事件など、ホームの無人化が一因だと考えられる。主要な駅だけでも、駅員でなくてもサポートの人員配置が必要。

路面電車の停留所にはすべて屋根。駅前電車通りは全蓋アーケードに

ホーム TO ホームの乗り換え（降りたホームの向かい側がバス停）

利便性を増すために駅移設・統合を行う（パークアンドライド駐車場の確保、最適な位置への移転）

公衆電話を必ず設置（最近少ない。駅に行けばある、と分かるようにする。）

トイレの改装（快適なトイレ・トイレトペーパーの常備・車椅子対応）

旅日記の設置。駅に「旅の思い出帳」を設置。旅行で訪れた人が電車待ちの時間に思い思いのことを綴ってもらおう。よく観光地にあると思います。ここから今後の活用策のヒントを得られるかも・・・

駅の管理は地元の自治会またはボランティアに任せる。

好きに花等を植えてもらう。

スペースのあるところは、公民館等を作って、駅を地域の中心拠点とする。

福祉センターでもいい。シルバー人材活用センターでもいい。学童保育でもいい。(子供は喜びそう！)

駅の管理を、沿線市町村から職員を派遣してもらって行う。

駅名を“リース”する(商業的使用)。新田塚駅を福井病院前駅等。副名でも

C 土地利用・駐車場

商店も、住宅も駅から離れてしまった。駅・バス路線の周りに機能を集中し、土地の有効利用を促進する方策を提案します。

駅周辺の駐車場付置義務の緩和で駅周辺への出店を促進

公共交通利用者を見込んだ駐車場の縮小を可能とする

大店立地法の運用でできるだけ駅のそばに立地を促進

駅周辺の容積率の緩和

駅周辺の土地有効利用、活性化を図るために容積率等の緩和を行う

駅周辺の土地の高度利用を促すための土地に対する資産税の調整

市街化区域・調整区域の区域区分を嶺北全体で行い、鉄道沿線を開発すべき区域として積極的に開発、公共交通利用困難地域の開発抑制

駅周辺の開発

地域・地区の公共施設はできるだけ駅周辺へ誘導。合わせて駐車場も確保。

福井市内など、需要の見込めるところで駅新設・移転と比較的規模の大きな開発(住宅・公共施設・商業施設など)を連動させる。

郊外の大型店舗が、高頻度の公共交通ネットワークに入るように義務付ける

d 資源発掘・町おこし

あの駅近くもこの駅近くも、歩いてみよう。魅力が発見できるはず。そしてみんなで語り合い広げていく。そうしたイベントで発掘できる地域資源をいろいろ並べてみました。

沿線の隠れた資源を発掘して光を当て活用する

祭り

勝山・左義長（2月・夜の火祭りで迫力）

小浜・放生会（9月）

敦賀・気比神宮大祭（9月）

三国祭（5月・北陸3大祭りのひとつ）

鯖江・すりばちやいと（2月・頭が良くなるとして受験生が訪れる）

などに合わせて、季節が近づいたら祭りの写真を車内に吊したり、駅に近づいたら車内で祭りの由来や、三国節など関連の民謡を流す。

農業

沿線各地にひろがる田や畑の美しさを生かしたい。

そばの花、麦秋や麦の収穫期、稲は苗のときと稲穂のとき、などに、駅に近接する田や畑のなかに臨時に簡易な「あずまや」（見物台）をつくり（持ち主の許可がいりませんが）、花見をするのと同様に田や畑の風景を楽しむ。家族連れなどがござをひけるスペースを用意し、お茶や軽食がとれるようにする。

九頭竜川、足羽川、日野川

川の魅力を再発見しよう。子どもやその親を対象に川遊びにくわしい人が先生となって、川での遊び方や昆虫、動物、植物の探し方を教わる。中年ばかりでただ昔の遊びをする、というのもいい。

古い民家、ユニーク建築

酒蔵

大学に行ってみよう（福大、県立大、医科大などで面白い公開講座や、学内案内ツアーを企画。学食食べ比べ）

そば屋食べ比べ（中年男性はそばに弱い！ 各地の店を食べ歩いている人は多い）

駅舎自体の再発見。駅そのものの建築をたずねる。現在の田原町駅、三国港駅などは暖かみ、存在感があり、よい雰囲気がある。県外からはきっと喜ぶ。もっと広く知ってほしい駅。

せり見学（中央市場は開発か新保から。買い物や食事もできるだろう。）

文化資源（泰澄大師の白山信仰が道元・蓮如を呼び寄せ、その宗教的史跡も多い。）

歴史資源（福井は歴史上の重要な人物も多い。継体天皇・紫式部・橋本佐内・・・）

地質資源（手取層群など希少な地層があり、恐竜化石が含まれる。全国的に貴重。）

郷土資源（郷土産物、郷土芸能）

観光資源（実は埋もれているいろいろな種類の資源に重要な観光的要素が・・・）

地形資源（この地形だからこそ成り立つというものがある。丘陵地帯や山にも実は人を集める力が。）

産業資源（沿線の工場は人の集積。駅設置でここに経済が生じる。物流も新たな集積も。）

都市経済資源（集積、経済力が周辺にもたらすダイナミズム）

食文化資源（カニ、魚、そば、らっきょう カレーライスに凝ってみたり）

景観資源（白山が見える、夕焼けが綺麗、星が見える）

5 社会教育

a マナー

公共交通での快適な移動を確保するためには、乗客・乗員のマナー向上が不可欠です。でも、我慢だけでは息苦しい。快適で楽しい車内づくりを提案します。

乗員の接客マナー教育の徹底

携帯電話の原則利用禁止と、携帯電話スペース（電車内で電話ができる）の設置

乗客としての席の譲り合い、降車時のマナー（降車の人を優先等）。

b 教育

くるまは便利。でも、失うものも多い。かけがえのない生命、地球環境、人とのふれあい。そうしたことを子供のころから学ぶことが大切です。我々は、子どもたちに公共交通の重要性とその活かし方をもっと教えなければなりません。

子どもたちに公共交通の重要性を認識してもらうため、学校現場の先生たちの意識改革が必要。

県から教育委員会に依頼し、教員研修の場などで公共交通とまちづくり、環境問題などをテ - マとした講座を開設する

幼児教育の中に公共交通の乗り方、必要性、利便性を教えるシステムを組む。小中高校の遠足や社会見学での公共交通の利用促進、電車で行ける遠足コ - スや社会見学コ - スを作成し、教育委員会を通じて各学校現場に配布する。遠足、定期乗車を教育の一環として捉える。

総合的な学習の時間の活用

総合的な学習の時間のテーマに「環境」がある。公共交通をテーマとした環境学習の教材案を提示し、学校現場に配布する。県として子ども向け副読本やパンフレットを作成する必要がある。総合的な学習の時間の活用は可部線では既に実施している

6 その他

a 新会社サポート、寄付

大きな資金、小さな資金、金も出すけど口も出す、金は出すけど名譽だけでいい。金を出すから電車のことをもっと知りたい。いろんな人に資金提供の窓口を提供する施策を提案します。

会員制（サポーター倶楽部）について

資金を株式による出資や寄付によらない方法で集める方法として会員制（サポーター制）にして会費を集める方法がある（メリットは特典。元本保証ではない）

Ex, 鉄道を支える会員を募集し、会員に対しては発足記念式典に招待。また、新鉄道試乗会に招待したり、会員名を記念プレートに刻み込むなどのインセンティブを与える。

会員、寄付を問わず のような施策を展開する。

サポーター倶楽部の会報を作成し、会員および寄付行為者の名前を掲載。

会員に対し毎年電車を貸切にして親睦会的な催しを行う。

寄付については、行政に対して寄付を集め、寄付額の累計を公表していく。

株式による出資も沿線住民がしやすいようにする。

新会社のネーミングを全国に募集、応募者にも応援団になってもらう。

マスコットの電車を準備し、愛称を全国に募集。応募者にも応援団になってもらう。

大遠忌で永平寺を訪れた全国の門信徒に寄付と募金を呼びかけ、応援できる仕組みを提供する。

長期間定期券と会員制度をドッキングさせ、長期間定期券の高割引率と資金調達を組み合わせた効果を狙う。

b 車対策

これまでは、電車を応援する方法を提案してきました。でも電車に乗ってもらうためには、世の中にある、見えない自動車優遇システムを見直し、車利用者から適正な負担を求めていく必要があります。

福井だけではできない道路財源制度の改善、環境税等の自動車の社会的費用の負担策、運転免許制度の改善など全国規模の施策も大切です。駐車場が無料ってほんとうに無料なのか、商品価格に上乗せされているだけなのではないか。素朴な疑問から地域からの提言も考えてみました。

もちろん、車対策だけでは不十分であり、車対策の一方で公共交通のアクセスの充実を図ることが重要です。

ロードプライシング：鉄道に並行する特定の道路に対してロードプライシングを実施する。（道路を利用する自動車への課金）

信号システム：路線バス、路面電車を優先させた信号システムで定時制を確保

駐車場の制限：公共交通利用者以外の駐車料金の引き上げ、駐車場の容量の制限、路上駐車を取り締まり強化

車利用者の適正なコスト負担

駐車場料金の引き上げ

車関係諸税の引き上げとその財源の公共交通活性化への活用

駐車場の空き待ちの道路への駐停車の禁止（駐車場空き待ちの車が交通渋滞を起こしている。）

クルマ利用者以外の買い物客にも駐車料金割引に相当する優待を与える

（電車利用者にも駐車割引券相当の電車割引券を与える）

車社会のデメリットに正面から向き合う

高齢者の運転する車が高齢者をはねて死なせた事件の例、親や祖父母が子どもを学校へ送り迎えする際の交通死亡事故の例、どちらも公共交通が発達していれば起こらなかったかもしれない事故です。このような例を説教臭くならないようにポスターなどに加工して、役場などの公共施設、人が集まるショッピングセンターや温泉施設、銀行・郵便局などに掲示。テレビ・ラジオのコマーシャルで、「こんなことがもうないように、車社会を一步脱して、公共交通を使おうよ」というトーンで広報。学校教育にも取り入れる。

新規開発に関しては公共交通アクセスを義務化する。

C 関連工事

現在の運行休止期間は、軌道周辺での工事を行うのに最適な期間。電車運行の影響を受けず昼間の工事で工事費用も大幅に節減できます。

軌道の線形改良でスピードアップを図る。

電車存廃の結果待ちで凍結されている郊外での道路の立体化を実施し、スピードアップにつなげる。

河川管理に伴う鉄橋改修を行いスピードアップを図る。

越前本線が福井口 福井間路面電車乗り入れとなるなら、三国芦原線（福武線経由）と運行を分離して電圧を1500Vに昇圧する。それにより冷房・ATS付きの状態の良い大手私鉄中古車両の無償譲渡を受けてそのまま使用できる。また、変電所は今の半分の数で済むため、全面改修が不要になる変電所がある。変電所の昇圧は変電所全面改修ほど大きな金額を必要としない。

鉄道改修に合わせて行政等による光ファイバー敷設を受け入れ、賃貸収入の増加を図る。

以上